

平成27年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

校訓である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人ひとりが相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりを持った心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人ひとりの学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

- ①2万人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承し、更なる学校の活性化に向けて全職員が一丸となり、「我以外、皆、我が師～人の語に素直に耳を傾ける～」のスローガンのもと、次の8点を重点目標に掲げ、生徒の「人づくり」のために邁進する。
- ②基本的な生活習慣を定着させ、生徒との面談、授業・部活動・学校行事を通して生徒の内面への指導を充実させ、遅刻・欠席・問題行動・転退学等の減少を図る。
- ③基礎学力の定着と授業の充実および基本的な学習習慣の定着により学校生活の充実を図らせる。また、学力向上により進路実現100%を目指す。
- ④入学させた生徒全員を卒業させることを目標にきめ細かな指導を行なう。
- ⑤服装容儀、挨拶のマナーアップを目指す。
- ⑥商業系資格検定取得の向上を目指す。
- ⑦教室をはじめ校内の美化、教育環境の整備に努める。
- ⑧部活動の加入率を向上させ、各種大会で上位を目指す。

4 前年度の成果と課題

進路保障では就職内定者の数は前年度より良い結果であったが、進学は国立合格者が3名にとどまり目標をかなり下回った。学園祭の成功など生徒会の活動は活発化した。学力の面では基礎学力の定着および家庭学習の習慣化はまだまだである。転退学者数は前年度とほぼ変わらなかったが、欠席・遅刻の数はかなり減少し、問題行動は激減した。服装容儀のマナーアップが望まれる。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営方針	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知させることができたか。 ・重点目標に積極的に取り組み、その成果があったか。	・重点目標を知っている保護者の割合を80%以上にすること。 ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を80%(平成26年度は65%)以上にすること。	・職員へは職員会議、生徒へは全校集会で、保護者へはホームページ、広報誌、振興会総会などで周知する。 ・振興会総会の保護者出席率を上げるために開催日を土曜日午後とする。	B	・重点目標の周知が生徒63%、保護者が58%と目標達成には程遠く、さらに周知に力を入れた。取り組みの評価は生徒・保護者とも90%を超えており評価に値する。振興会総会の出席率が低迷している点の改善が喫緊の課題である。
	生徒募集 (広報活動)	・中学生のニーズに合った進路情報をタイムリーに提供できたか。 ・中学校や進学塾との信頼関係を強化できたか。	・各種説明会等やホームページの活用と広報資料・方法を見直す。 ・オープンスクールや佐学模試の内容を検討し中学生の本校への関心を深める。	・校舎改築に伴う新しいステージに向けての本校の取り組み等を、「紙媒体」から「電子広告」へ広報手段を移し、積極的に情報発信を行なう。 ・中学校や進学塾の現場の進路情報を募集に生かす。	B	・校舎改築のため1回目のオープンスクールが外部施設での実施となったが、大きな支障もなく中学校へのアピールができた。また、佐学模試を本年度は2回実施し、進学塾等の協力もあり昨年並みの参加者があった。 ・TERA廃止により「電子広告」を利用した広報活動を検討する必要がある。
学校運営	学校事務	生徒・職員の安心安全のため校舎改築工事に着手する。	安全かつスムーズな工事進行を行なう。	効率的な引越し作業と周到な準備を実施する。	B	・設計施工スケジュール通りに耐震工事が進捗し、竣工後に効果的な引越しを実施した。 ・引き続き、生徒・職員の安全な導線の確保を図る。
	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・教育センターの講座、不登校・引きこもりにしめ問題・発達障害等の講座に加え、今年度より情報教育分野への参加を含め、3年間2回以上は講座を受講する。 ・生徒が充実感を味わえるような授業を展開し、授業改善アンケートの評価を参考に研鑽に努める。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。教育センターの研修講座に15名以上参加する。 ・各教科での授業研究会を開催する。 ・職員相互の授業参観を活性化し、授業の質を向上させる。	B	・教育センターの講座へは予定通り申し込んだが、実際受講できたのは6講座10名であった。 ・職員研修については、「高大接続改革について」、職員研修での伝達講習として「学校等における児童虐待防止研修会」「高等学校における政治的授業の教育と高等学校の生徒による政治的活動等について」などを実施した。 ・授業改善アンケートの評価を参考に授業の質の向上に努める。
学力向上	学力向上	・基礎学力の向上が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・基礎学力の向上を図る。 ・進学、就職に対応できる学力の定着を目指す。	・マナレをより有効に活用する。 ・家庭学習を充実させる。 ・教師間で共通認識を図り、目標・指導・評価が一体となった授業に取り組む。	B	・普通科・情報理科から国立大学合格が出たが、少数の生徒で終わることなく、全職員で生徒を3年間育て上げる視点を持つ。家庭学習の定着を如何に図るべきか、最重要課題とすべきと思われる。
	進路指導	・進路を実現できる学力がついたか。 ・発達段階における進路意識が芽生えたか。 ・進路指導ガイダンスがキャリア教育に生かされたか。 ・希望進路が具体的な進路保障につながったか。	・進路指導講話や、外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・受験に対応した学力と学習力の向上を図る。 ・成績高等部を牽引力とした国立大学合格者数10名を目指す。 ・就職内定率100%を達成する。 ・月に1回程度の進路指導部会を実施し、進路情報を共有化する。	・進路調査、適性検査、進路ガイダンスなどで個人の客観的データの確認させる。 ・基礎力診断テストなどの分析によりミスマッチのない進路指導を行なう。 ・学力向上セミナーを実施する。 ・担任によるFINE SYSTEMの利用により具体的な指導を活性化させる。 ・面接・小論文指導を礼法指導部・国語科の協力を得て充実させる。 ・新規企業開拓、企業訪問を強化する。	B	・3年生については、2年3学期の適性検査において進路の方向性を具現化することができた。 ・1・2年生については、進路ガイダンス等において進路意識を高揚させることができた。また、普通科を軸として英・数・数の添削指導や、課後指導が行われた。 ・普通科・情報理科から国立大学合格者を出ることができた。 ・面接・小論文指導については、礼法の時間や国語科の時間で充実したと思われる。 ・企業訪問・上級学校訪問等は相当数の実施ができ生徒へ還元することができた。
教育活動	生徒指導	・服装が正しく着こなされたか。 ・マナーの向上が図られたか。 ・交通安全の意識が向上したか。	・制服を正しく着用する。 ・JR利用者、自転車利用者のマナー向上に努める。	・集会や検査等で統一した指導を図る。 ・携帯電話・スマートフォン利用は学校の始業時から終業時までの間は完全使用禁止とする。	B	・スカートを短くする生徒が多く、様々な観点から指導や対策を考える必要がある。 ・重点目標であったスマホ利用については指導の効果があつた。 ・交通安全については日々の声掛けをもっと増やし、意識向上に努めたい。
	環境美化	・教室の学習環境が整備されているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・校内美化の意識が向上したか。	・校内を清掃のいきとどいた状態にする。 ・自主的に清掃活動を行なう意識の向上を図る。	・清掃用具の点検、整備を行なう。 ・美化コンクールを実施し校内美化の意識を高める。 ・ゴミの分別を徹底し、ゴミ袋に所を記入し出すことさせる。(クラス、部活、分掌等)	B	・ごみ袋の記名は定着してきたが、分別については不十分であった。継続して声掛けをしたい。 ・生徒から出るごみの量が多く、特に昼休み後はごみ箱から溢れていることもある。新校舎では検討が必要がある。 ・美化コンクールの実施が、校内美化の意識づけに繋がっていると思うが、コンクール以外の自主的な清掃活動の意識づけはまだ不十分である。教室の環境は整理整頓でき、よくなっているが、クラスによって温度差がある。
特定課題	課外活動	仲間と切磋琢磨し、社会的や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・加入率70%を目標に、担任、顧問との連絡を密にし、各クラブの部員数を増やす。 ・各種大会で優勝を目指し、上位進出を果たす。	・クラブ紹介を工夫する。 ・文武のバランスを考え、部活動の質を高める工夫を図る。	A	・各クラブの球技で良い成績を残した。 ・クラブ紹介の映像は評判が良かった。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	担任、学年主任、管理職、教育相談担当者、スクールカウンセラーのチーム体制で生徒・保護者との情報の共有を図り、学習面・生活面・精神面などにおいて充分な対応ができたか。	・教育相談室でも挨拶や礼儀などのマナーやスマートフォン利用などのルールを守る。 ・学習のつまずきを振り返り、生徒一人ひとりに合わせた指導や助言を行なうことにより、学力を向上させ、生徒の自信につなげる。 ・精神的安定が保たれ、生徒自身が所属学級に戻れるよう努める。	・チームが一丸となって、連携を図り、情報の提供に努める。 ・生徒一人ひとりに合わせた学習指導をする。 ・適宜面談をし、希望や必要性に応じスクールカウンセラーの実施を促す。	B	・担任との情報共有が不十分どころがあった。今後は、日頃から密に連絡を取り合い、生徒一人ひとりの理解を深めていきたい。 ・一人ひとりの能力に合わせた学習指導を、今後行っていく必要がある。 ・気になる生徒等に声掛けをすることで、カウンセリングに至り、支援へと繋げることができた。
キャリア教育・マナレ	礼法教育	品位ある高校生としての日常生活を送ったか。	T.P.Oを踏まえたマナーを目指す。	集団生活には規範やルールがあることを理解させる。	B	・高校生活や日常生活にふさわしいマナーを身につけることが大切である。
	生徒会活動	校内の問題を自分たちで考え、主体的に行動できたか。	学級活動や委員会活動を活発に行い、学園祭をより充実したものとする。	ホームアップ機能をより充実したものとし、関係分掌、学年、学級との連携を密にする。	A	生徒会が中心となって例年より良い学園祭ができた。
キャリア教育・マナレ	キャリア教育・マナレ	・毎日のマナレの内容を定着させて基礎学力を身に付けさせることができたか。 ・年間を通しての進路指導において、キャリアノートを活用して進路の実現に結びつけることができたか。	・マナレ認定テストの基礎編、標準編のクリアを目標として、GTZをC以上のレベルに到達させる。 ・3年間を見通したキャリア教育を浸透させて、進路の実現を図る。	・マナレ終了テストや基礎力診断テストの分析をしてレポートを作成する。 ・キャリアノート・インターンシップを進路保障にリンクさせて進路実現を図る。	B	・マナレについてはマンネリ化が見られ、学習方法の改善が必要である。 ・基礎力診断テストをうまく活用することができなかった。 ・キャリアノートについてはうまく活用できず、インターンシップとのリンクもあきまてさらに改善して良いものにする必要がある。

6 総合評価

評価は、校舎改築と平行しての教育活動であったが、教職員の理解と指導、生徒の協力で円滑な教育活動が実施できた。卒業生は卒業式の高い評価に代表されるように進路保障など近年にない成果を上げた。成績高等部の国立・難関私立大学への合格者の輩出は顕しかった。部活動は体育系で県高校総体の団体優勝をはじめ個人での活躍も多かった。文化系は吹奏楽部の活躍、商業系でも電卓部門で九州ナンバーワンを出した。資格取得の面でも上昇傾向が見られた。また、生徒のマナーアップへの取り組みも具体化しており、更なる推進が望まれる。

7 次年度への課題・改善策

「生徒一人ひとりを大切に育てる」ための具体的方策として、基本的な生活習慣の更なる定着、授業の充実、家庭学習の習慣化、部活動加入率の更なる向上、マナーアップ等々、取り組むべきことは山積しているが、教職員が一丸となって重点目標達成に向けて新校舎とともにイメージアップを図りたい。